



2021年4月30日

各 位

会社名 アイカ工業株式会社  
代表者名 代表取締役 社長執行役員 小野 勇治  
(コード番号:4206 東証・名証各第1部)  
問合せ先 執行役員 経営企画部長 酒井 信禎  
(TEL 052-533-3137)

## サステナビリティ方針の策定とマテリアリティの刷新について

当社は、本日の取締役会で、サステナビリティ方針の策定とマテリアリティの刷新について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、4月1日よりその推進体制を変更しており、価値創造モデルを制定しましたので併せてお知らせいたします。

### 記

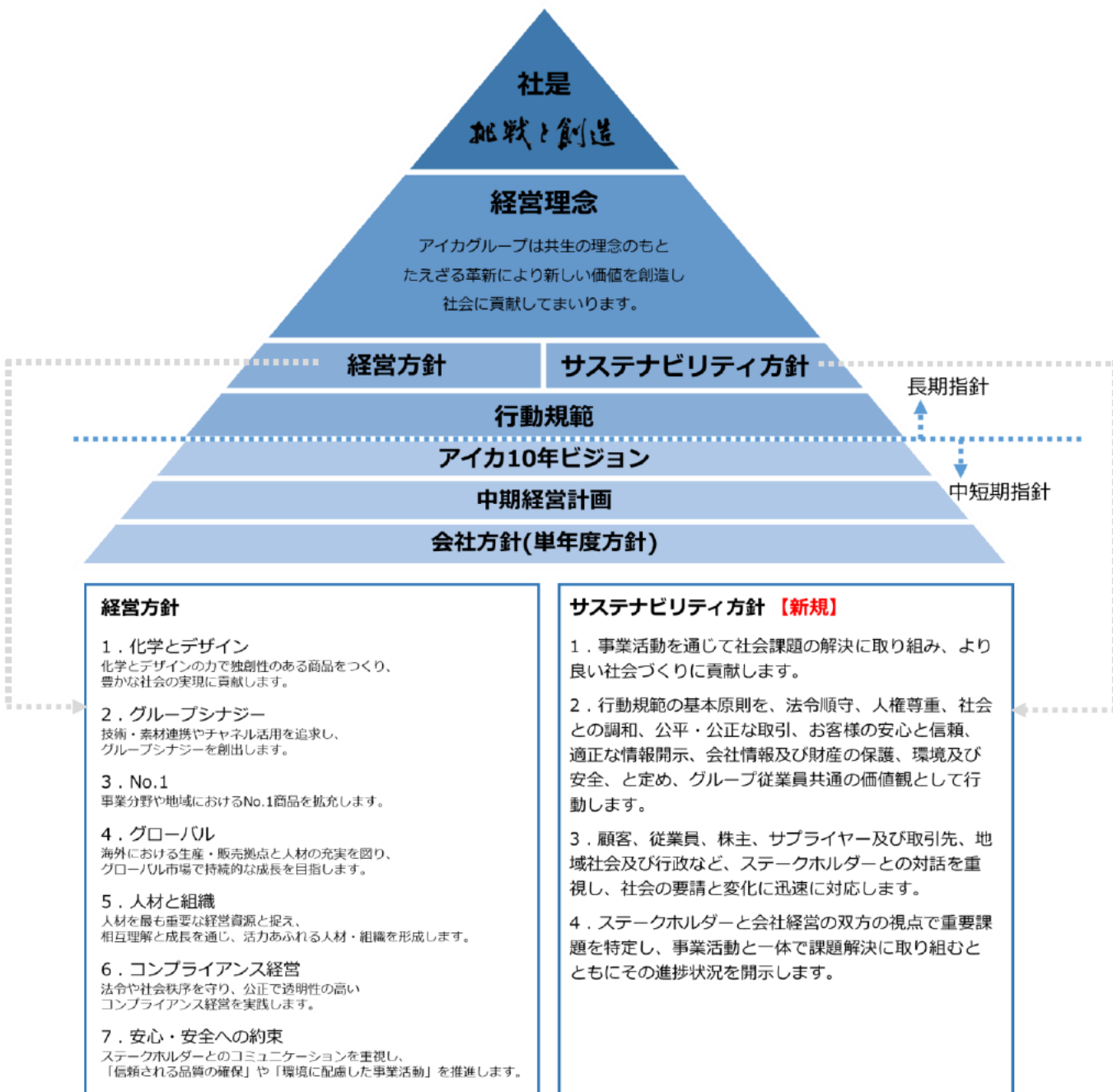
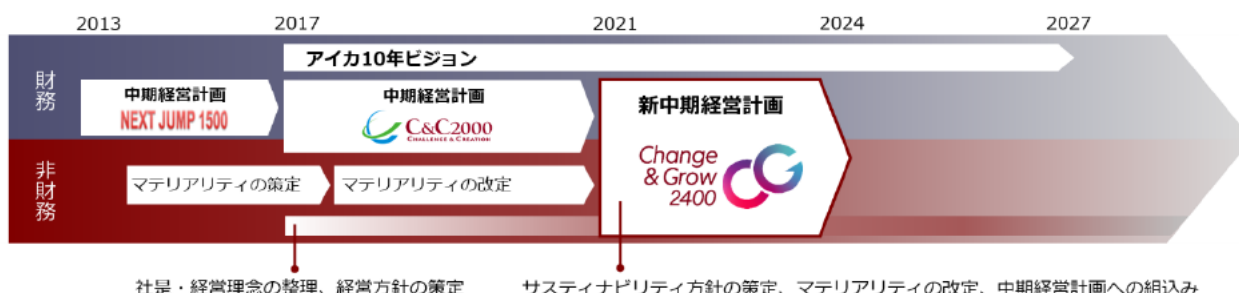
#### 1. サステナビリティ方針の策定

アイカグループは、これまで大切にしてきたポリシーを2017年4月に整理し、「挑戦と創造」を社是に、「アイカグループは共生の理念のもと、たえざる革新により新しい価値を創造し、社会に貢献してまいります」を経営理念に制定しました。また同時に、「1.化学とデザイン 2.グループシナジー 3.No.1 4.グローバル 5.人材と組織 6.コンプライアンス経営 7.安心・安全への約束」の7項目からなる経営方針を制定しました。

アイカグループのサステナビリティに対する考え方は、従来より大切に受け継がれており、これらの経営理念や経営方針の中でも体现されてきましたが、今般、社会と企業の持続可能性に注目が集まる中、サステナビリティ経営に関わる基本理念や方針を社内外によりわかりやすく発信し、更に推進していくことを目的に、経営方針と同列にサステナビリティ方針を新設し、あわせて行動規範を改定し、アイカポリシーの体系を刷新しました。

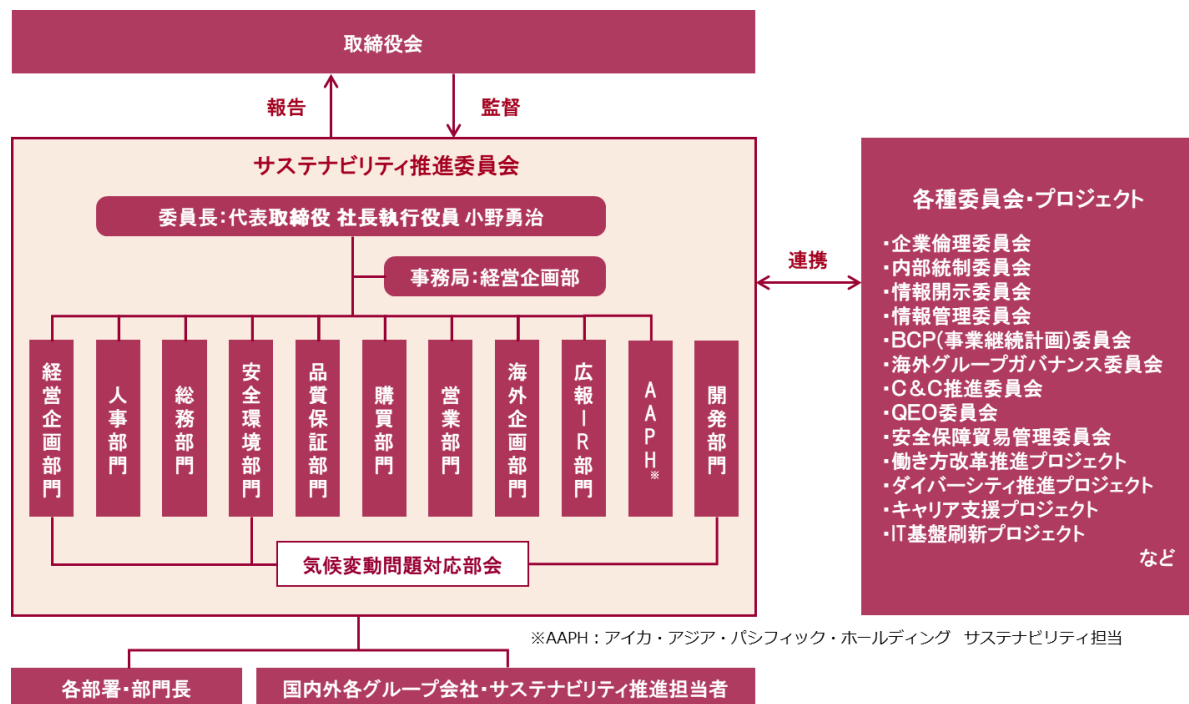
「サステナビリティ方針」には、事業活動を通じたより良い社会づくりへの貢献、グループ従業員共通の価値観である行動規範、社会の要請と変化に迅速に対応するためのステークホルダーとの対話の重視、開示への姿勢の4項目を盛り込んでいます。

引き続きグループ一丸となってサステナビリティ経営の強化に取り組み、変化に強い企業体質を整え、事業活動を通じて持続可能な社会づくりに貢献し、より一層の企業価値向上に努めてまいります。



## 2. サステナビリティ体制の強化

企業のサステナビリティ活動に対する社会の要請の多様化・深化を受け、サステナビリティ体制を強化しました。昨年より、監督機能は経営会議から取締役会へ移しており、今年からは推進母体であるCSR推進委員会をサステナビリティ推進委員会へ変更し、委員長を担当執行役員から社長執行役員へ変更しました。また、昨年までは外部のプロジェクトであった「気候変動問題対応プロジェクト」を、サステナビリティ推進委員会の中の「気候変動問題対応部会」へと移動し、更なる推進体制を整えました。構成部門それぞれが担当項目に関する活動の深化を図り、各部門やグループ会社、委員会等と連携しながらマテリアリティ目標の達成に向けて活動します。



## 3. マテリアリティの改定

近年の大きな経営環境の変化に対応し持続的に社会的責任を果たすべく、マテリアリティを更新しました。事業活動を通じた社会貢献を実行しているアイカグループらしさを表現した「経済価値の提供」「商品を通じた社会課題解決」といった項目に加えて、経営基盤の強化を図るべく「人材育成・組織強化」「DX推進」「気候変動対応」「ガバナンス強化」「品質保証・労働安全」の項目をマテリアリティに掲げています。それぞれについては、以下の内容を目指します。

### <経済価値の提供>

付加価値の高い商品の提供や生産性向上により売上拡大、利益創出に努めます。それによって生み出された利益を株主や従業員へ適切に配分するとともに成長事業への投資を行い持続的な発展を目指します。

#### <商品を通じた社会課題解決>

当社は企業理念の中で「新しい価値を創造し社会に貢献する」ことを宣言しています。ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて社会課題を発見し、事業活動を通してその解決に向けた価値を提供することで、サステナブルな社会の実現に貢献します。

#### <人材育成・組織強化>

人材を最も重要な経営資源と捉え、企業のサステナビリティを高めるための人材マネジメント基盤を整備します。リーダーの育成とキャリア形成の支援を行い、多様な人材が活躍できる職場を構築し、会社と従業員がともに成長することを目指します。

#### <DX 推進>

特に近年のデジタル技術の進化は目覚ましく、それらを取り入れることで事業活動の変革を図ります。生産工程の自動化・省人化により生産性の向上を図り、労働人口の減少に備えます。また、顧客データを蓄積・分析・活用し、営業効率を改善するとともに商品企画へ活かします。経営環境が大きく変化していく中、その変化に迅速に対応すべく、デジタル技術を用いてすべての業務において効率性とスピードを追求し、企業の競争力を高めます。

#### <気候変動対応>

気候変動対応の重要性は年々高まっています。気候変動のリスクと機会を的確に捉え、2050年カーボンニュートラルを視野に入れた長期戦略を立案します。抜本的な温室効果ガス削減策を検討するとともに、激甚化・頻発化する異常気象に備えてBCP対策を強化します。具体的には3年間で、温室効果ガス排出量（Scope1+2総量）の2050年実質排出ゼロを目指したシミュレーションを実施し、具体的な施策を立案します。また、Scope3の算定方法を確認し、削減に向けた施策を立案し、LCA全体を見据えた取り組みをグループ全体で進めてまいります。

#### <ガバナンス強化>

グループガバナンスの更なる強化に向け、グループ会社の管理・監督、権限移譲に関するルールを拡充し、その実効性を高めます。また、リスクの正確な把握・評価・対策のプロセスを通じ、リスクマネジメントの深化を図るとともに、情報セキュリティ対策にも注力します。

#### <品質保証、労働安全>

メーカーの使命である「製品の安全および品質」や「従業員の安全」を確保するために、現場教育やチェック体制を強化し、市場の要求や法令、規制、手順を遵守するといった、基本をおろそかにしない企業風土を醸成します。

マテリアリティのKPIは、下記表のように定めています。このKPIを中期経営計画に組み込むことで確実に遂行してまいります。

ーマテリアリティ KPIー

項目	内容	フォーカスポイント	KPI		対応するSDGs	
			期限	目標値		
(1)経済価値の提供	付加価値の高い商品の提供や生産性向上により売上拡大、利益創出に努めます。それによって生み出された利益を株主や従業員へ適切に配分するとともに成長事業への投資を行い持続的な発展を目指します。	・利益創出 ・成長事業領域の拡大 ・資金確保、配当	2023年度	ROE：10%を目標 経常利益：240億円 売上高：2400億円 配当性向：50%の維持	8	
(2)商品を通じた社会課題解決	当社は経営理念の中で「新しい価値を創造し社会に貢献する」ことを宣言しています。ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて社会課題を発見し、事業活動を通してその解決に向けた価値を提供することで、サステナブルな社会の実現に貢献します。	・商品を通じた温室効果ガスの削減 ・省施工、省人化型商品の開発・拡販 ・建築物やインフラの長寿命化	2023年度	AS商品の売上高：210億円以上	アイカ工業単体	3, 7, 8, 9
			2023年度	SDGs貢献商品の定義確立、目標設定	アイカグループ	11, 12, 13, 15
(3)人材育成・組織開発	人材を最も重要な経営資源と捉え、企業のサステナビリティを高めるための人材マネジメント基盤を整備します。リーダーの育成とキャリア形成の支援を行い、多様な人材が活躍できる職場を構築し、会社と従業員がともに成長することを目指します。	マネジメント人材開発 キャリアパス設計 サクセッションプランの策定 従業員満足度の向上 多様な人材の活用推進 (外国人・女性・シニア・障がい者)	2023年度	教育・研修費用額のグループ全体における把握、向上	アイカグループ	4, 5, 8, 9
			2023年度	1人当たり研修時間のグループ全体における把握、向上	アイカグループ	10
			2023年度	部門別、階層別スキルリストの作成・運用	アイカグループ	
			2023年度	従業員満足度調査のグループ全体での実施、活用	アイカグループ	
(4)DX推進	デジタル技術の活用により、より生産性を高め、事業活動の変革を図ります。労働人口の減少を見据えた生産現場の自動化、データの蓄積と活用による業務効率改善などに取り組み、企業の競争力を高めます。	情報基盤の構築 自動化、省人化 働き方改革 データの蓄積と活用	2023年度	自動化・省人化に資する設備投資額、情報化投資額 3年累計8億円以上	アイカ工業単体	8, 9
(5)気候変動対応	気候変動のリスクと機会を的確に捉え、2050年カーボンニュートラルを視野に入れた長期戦略を立案します。抜本的な温室効果ガス削減策を検討するとともに、激甚化・頻発化する異常気象に備えてBCP対策を強化します。	温室効果ガス排出量削減 産業廃棄物削減 異常気象への適応 (BCP整備、災害対策設備投資)	2023年度	売上高原単位温室効果ガス排出量 10%削減（2020年度比）	アイカグループ	7, 13
			2023年度	温室効果ガス排出量(Scope1+2総量)2050年実質排出ゼロを目指したシミュレーションの実施、施策立案。Scope3算定方法確立、削減に向けた施策立案	アイカグループ	
			2023年度	売上高原単位産業廃棄物排出量 10%削減（2020年度比）	アイカグループ	11, 12
			2023年度	ハイリスクエリアにおける売上高原単位水使用量 6%削減（2020年度比）	アイカグループ	6
(6)ガバナンス強化	グループガバナンスの更なる強化に向け、グループ会社の管理・監督権限移譲に関するルールを拡充し、その実効性を高めます。また、リスクの正確な把握・評価・対策のプロセスを通じ、リスクマネジメントの深化を図るとともに、情報セキュリティ対策に注力します。	グループ会社管理強化 リスクマネジメント体制再構築 IT刷新、セキュリティ強化	2023年度	BCP強化(異常気象、天災対策) 全連結生産拠点での1回以上/年のBCP訓練実施、新規連結工場拠点のBCP策定	アイカグループ	11, 13
			2023年度	グループガバナンスルール拡充	アイカグループ	10, 16
			2023年度	セキュリティ強化に資する情報化投資額 3年累計3億円以上	アイカ工業単体	
(7)品質保証、労働安全	メーカーの使命である「製品の安全および品質」や「従業員の安全」を確保するために、現場教育やチェック体制を強化し、市場の要求や法令、規制、手順を遵守するといった、基本をおろそかにしない企業風土を醸成します。	製品の安全と品質の確保 労働災害撲滅 現場人材の強化	毎年度	顧客満足度調査に基づく品質改善	アイカグループ	3, 12
			毎年度	休業災害件数 前年以下	アイカグループ	
			2023年度	部門別研修制度の確立と運用	アイカ工業単体	

#### 4. 価値創造モデルの策定

アイカグループの強みとビジネスモデルを明確にすべく、価値創造モデルを策定しました。「化学とデザイン」のコア技術を元に事業間シナジーを創出し、ステークホルダーとの対話を通じてその質を高め、社会に価値を提供することで持続可能な社会の実現を目指しています。

